

4-4		主題	小グループ活動の取り組み	
レクリエーション		副題	活動の個別化へ向けての仕組み作りと実践	
デイサービス				
研究期間	8ヶ月	事業所	通所介護 至誠柏地域福祉サービスセンター	
発表者：木原和恵（きはら かずえ）			アドバイザー：	
共同研究者：額賀悠介 川鍋治				
電 話	042-535-5510	メール	kashiwa@shisei.or.jp	
FAX	042-535-0908	URL	http://www.shisei.or.jp/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホーム 柏地域福祉サービスセンターは、平成5年、立川市の委託を受けて都営住宅の1階にデイホームを主とした事業を開設し、至誠ホームのサービス理念に基づいて利用者本位のサービスを展開しています。
------------------------------	--

《研究前の状況と課題》 これまで、センターにおける個別活動のメニューは、手芸・陶芸・書道・脳トレプリント程度で、それ以外は集団メニューが多く、利用者にとって受け身的になりやすい活動となっていました。職員数にゆとりのある日などは個別・小集団活動を行っていましたが、計画性はなく、単発的なものでした。そこで、利用者の個々の要望や主体性を活動に反映しやすい小グループでの活動を計画的に行えないか検討し、仕組み作りに取り組むことにしました。	《研究の目標と期待する成果》 自主的に交流でき、自己判断できる一般通所介護の利用者を対象に、小人数の活動プログラムを検討しました。そして、小グループで個別の要望を叶えることにより、個人の意欲を引き出し、心身の活性化・個別サービスの多様化へ繋げていくことを目標としました。前年度の活動プログラムのアンケートの結果、「外出」の希望が多かったため、今回は小グループの目的別「お出かけ」に焦点をおきました。
--	---

《具体的な取り組みの内容》

【計画】

- ① 連絡会にて職員へ小グループ活動の趣旨を周知する。
- ② 利用者へ、やりたいこと・行きたい所の個別聞き取り調査を行う。目的に合わせた近隣の社会資源の下調べ。
- ③ 駐車場・トイレ・バリアフリー等の下調べ。活動にかかる経費は利用者負担。
- ④ 活動時間は13:00～15:00の職員数の手厚い午後の活動時間帯に実施。
- ⑤ 利用者の通所日と職員の勤務状態を配慮し、日程・場所・メンバーを選定。
- ⑥ 担当職員は事前に参加メンバーと打ち合わせをする。内容は可能な限り利用者同士で話し合って頂き、職員は補佐的な役に留める。
- ⑦ 打ち合わせが済んだら参加者に「お出かけのお知らせ」を配布。
- ⑧ 活動当日は担当職員が朝礼にて活動内容を周知する。
- ⑨ 活動中の職員は安全の配慮を行うとともに、可能な限り利用者の自主的な行動を尊重する。
- ⑩ 活動終了後の連絡会にて活動の様子・評価を報告し、「お出かけ実施記録」に記入する。

【お出かけにあたってのポイント】

- ・利用者主体の企画を行う。
- ・主体性を活かせるよう意図的な関わりを。

《取り組みの結果と評価》

●春のお出かけ（5・6月）実績

⇒14回実施。利用者計51名参加
（1回の活動につき2～5名参加）

●秋のお出かけ（10・11・12月）実績

⇒14回実施。利用者計46名参加
（1回の活動につき2～5名参加）

- ・小人数の活動で、付き添い職員も少なく済む為センターの通常活動にも支障がなかった
- ・小人数のため、要望を反映させやすかった。
- ・仕組み作りをしたことで計画的に実施できた。

《まとめ》

- ① 今回の仕組みを生かし、外出だけでなく、センター内の活動にも「小グループ」を取り入れていく。（例：小人数の趣味活動など）
- ② 定着化に向け、利用者・家族に相談のうえ、通所介護計画書に「個別・小グループ活動」を位置づけていく。
- ③ お出かけの場合
基本的にデイサービスは施設内で行うサービスの為、出かける根拠として居宅サービス計画書の通所介護の目標に「社会交流や地域との関わり」をケアプランとして入れてもらうよう、利用者・家族・ケアマネジャーに提案していく。

《参考文献》

なし

《提案と発信》

リハビリや口腔ケア等とは異なり、アクティビティに関しては、数値化したり指標を示す手段が少なく、評価しにくい分野であると感じます。にも関わらず、通所介護におけるアクティビティは活動時間の大部分を占めており、また、利用者の心身の活性化に有効な活動を行っている事業所も多いと思うので、介護保険下で評価されるような加算体制（アクティビティ加算以外）が構築されていけばと思います。

【メモ欄】